CDEJ のための情報アップデート

新たな試み「薬と糖尿病を考える会」設立について

北里大学薬学部薬物治療学Ⅲ教室／北里研究所病院薬剤部　井上　岳

この度，糖尿病薬物療法の発展など，薬剤師がいかに社会貢献するかをテーマに，薬剤師 CDEJ が中心となり「薬と糖尿病を考える会」を設立しました．今回は，「薬と糖尿病を考える会」についてご紹介致します．

「薬と糖尿病を考える会」の発足にあたり，代表世話人である北里大学薬学部教授／北里研究所病院薬剤部長厚田幸一郎氏は，設立の趣旨を以下のように述べております．『糖尿病患者の加速的増加と相俟って，多くの新しい糖尿病治療薬が上市され，糖尿病治療薬の選択肢が拡大すると同時に糖尿病の薬物療法は複雑化を呈しています．このようななか，薬剤師は薬学的視点から薬物療法のみならず，食事や運動，そして生活習慣全般に至るまで幅広い療養指導の実践・向上に努めるべきです．加えて，専門性を究める学術研究を推進することも重要な課題です．そのためには，病院ならびに薬局薬剤師，そして基礎薬学研究者の連携が必須となります．これらの連携を密にし，専門性を高め，糖尿病薬物療法の発展，延いては社会に貢献するために薬と糖尿病を考える会を設立しました』．

多くの薬剤師 CDEJ は，臨床現場での疑問などを研究テーマに挙げ臨床薬学研究を行い，療養指導に生かしています．しかし，糖尿病療養生活における薬物療法の様々な問題に立ち向かうためには，薬学基礎研究の視点も重要であります．今後，薬学基礎研究と臨床研究の交流を深めることは，薬剤師全体のレベルを押し上げることにつながると考えます．糖尿病薬物療法を主眼に薬剤師 CDEJ と薬学研究者が共に集まり，学術的な交流を深めることを目指す本研究会は，まだ歩み始めたばかりですが，現在，「糖尿病薬物療法の発展にいかに貢献するか―薬と糖尿病を考える会が目指すもの―」をテーマにキックオフシンポジウムを平成 23 年 11 月 6 日（日）に開催すべく準備をしております．

「薬と糖尿病を考える会」を通じて，臨床における薬剤師の役割である「医薬品の適正使用を常に確保する」ためにどのように関与すべきか，さらに薬剤師のスキルアップへ貢献するための一歩を共に歩んで行きたいと考えております．薬剤師だけでなく多くの CDEJ の皆様のご参加をお待ちしております．

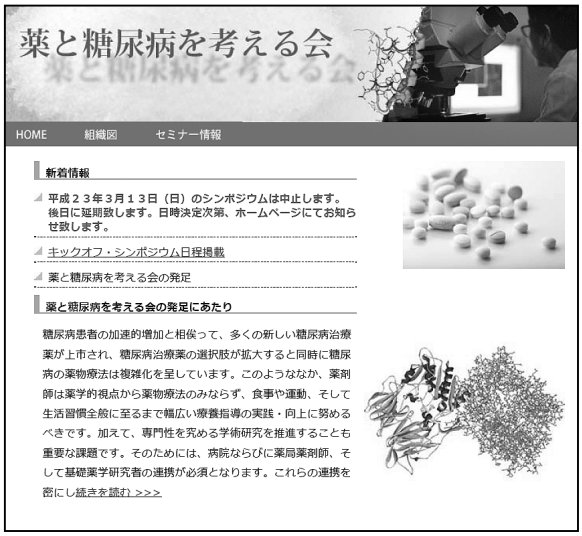
薬と糖尿病を考える会キックオフ・シンポジウム

日　時：平成２３年１１月６日（日）　１０：００～１６：２０（受付開始９：30）
会　場：北里大学薬学部コンベンションホール他（東京都港区白金５－９－１）
参加費：3,000 円（原則として事前申込が必要）

主なプログラム
10:10～11:10 基調講演
「糖尿病治療薬と基礎薬学研究」　東京大学大学院薬学系研究科教授　杉山　雄一
11:10～12:10 特別講演
「糖尿病治療の最前線」
東京大学大学院医学系研究科教授・日本糖尿病学会理事長　門脇　孝

14:00～16:00 シンポジウム
「糖尿病薬物療法の発展にいかに貢献するか
－薬と糖尿病を考える会が目指すもの－」
座長　武蔵野大学薬学部教授　伊藤　清美
東京都立神経病院薬剤科長　阿部　和史
＊基礎薬学研究の現状と課題　星薬科大学薬学部准教授　森下真莉子
＊臨床薬学研究の現状と課題　新潟薬科大学薬学部准教授　朝倉　俊成
＊薬学研究を生かした療養指導業務１　陣内病院薬剤部　西村　博之
＊薬学研究を生かした療養指導業務２　薬局恵比寿ファーマシー　佐竹　正子
16:00～16:15 災害支援活動報告
「(仮題) 石巻市女川町における薬剤師による支援活動」　よつ葉薬局　笠原　徳子

共催：薬と糖尿病を考える会
社団法人東京都病院薬剤師会



＜問合せ先＞　薬と糖尿病を考える会事務局／井上　岳
〒 108-8641　東京都港区白金５－９－１　北里大学薬学部薬物治療学Ⅲ教室内
E-mail：dm-ph@pharm.kitasato-u.ac.jp　http://diabetology-phar.main.jp/